

# 令和3年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第3号（水稻）

令和3年7月12日発表  
広島県西部農業技術指導所  
対象期間 令和3年7月中旬～7月下旬



1		予報内容（7月下旬まで）		
病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
葉いもち	※中北部	やや多	穂いもち	◇7月上旬巡回調査では、やや多い発生であった。 ◇中国地方1か月予報では、今後発生に好適な気象条件となっている。 ◇育苗箱施用剤を処理したほ場でも、発生に注意してほ場の見回りを行う。いもち病に弱い品種（あきさかり、恋の予感など）では特に注意する。 ◇発生が見られたほ場では、速やかに防除する。 ◇穂ばらみ期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防する。
			やや多	
	※中北部：中東部 中西部 南部 北部	やや多	葉いもち	
			やや多	
紋枯病	並 (発生なし)	並	◇7月上旬巡回調査では、発生は認められなかった。 ◇梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病株率が増加するので注意が必要。 ◇昨年、発生が多かったほ場は注意が必要。 ◆要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。	
セジロウンカ	やや少	やや少	◇7月上旬巡回調査では、やや少ない発生であった。 ◇穂ばらみ期の防除を徹底する。 ◇一部の飼料用米では注意する（北陸193号、タカナリなど）。 飼料用米で防除を行う場合には、「 <a href="#">稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル</a> （農林水産省HPに移動）」を参考にする。 ◆要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上。	

トビイロウンカ	並 (発生なし)	並	<p>◇6月下旬の4月植え水稻における調査では、発生は確認されなかった。</p> <p>◇7月上旬巡回調査では、発生は認められなかった。</p> <p>◇7月第2半旬まで、予察田（呉市安浦町，東広島市八本松町）での発生は認められていない。</p> <p>◇7月第1半旬まで、予察灯（呉市安浦町，東広島市八本松町）への飛来は確認されていない。</p>
コブノメイガ	並 (発生なし)	並	<p>◇7月上旬の調査では、発生は見られなかった。</p> <p>◆防除時期：穂ばらみ期，穂揃い期の2回の防除を徹底の上，中生以降の品種で被害株率20%を超える場合，粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後，粒剤は発蛾最盛期に追加で防除を行う。</p>
斑点米 カメムシ類	やや少 (※中北部)	やや少	<p>◇6月下旬における牧草地すくいとり調査では、やや少ない発生であった。</p> <p>◇早生は，出穂が早いいため防除時期を逸しないようにする。</p> <p>◇出穂期近くになっての畦畔などの除草は，カメムシ類を水田内に追い込むことになる。早生では除草を控える。中生では出穂2週間前までに除草を終える。</p> <p>◇予察灯（呉市安浦町）でのアカスジカスミカメの誘殺数は平年に比べやや少ない。</p> <p>※カスミカメムシ類はアカスジカスミカメなどの小型のカメムシ類，その他加害種はホソハリカメムシなどの大型のカメムシ類。</p>

## ● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム  
 東広島市八本松町原 6869  
 TEL：082-420-9662（直通）  
 FAX：082-420-9665  
 メール：wnshidou@pref.hiroshima.lg.jp

ひろしま農業情報ホームページ（病害虫情報）  
 (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu...cityuu>)



もみのしん

## (1) 葉いもち

◆予報（中北部：穂いもち・やや多，南部：葉いもち・やや多）

◆現況調査結果（中北部：やや多，南部：やや多）

	中北部			南部		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
発生地点率	40.9	14.9	4.8	20.0	2.5	0.0
平均発生程度	1.10	1.03	1.02	1.01	1.00	1.00

◆気象条件：中国地方1か月予報によると，今後発生に好適な気象条件となっている。

◆BLASTAM（いもち病感染好適日判定モデル）による感染好適日は，平年と比較して多く推移している。

## (2) セジロウンカ

◆予報（やや少）

◆現況調査結果（やや少）

	本年	平年	前年
発生地点率	22.2	45.1	84.6
平均発生程度	1.02	1.15	1.64

◆気象条件：中国地方1か月予報によると，平均気温は平年並と予報されている。

## (3) トビイロウンカ

◆予報（並）

◆現況調査結果（並（発生なし））

◇7月第2半旬の予察田（呉市安浦町）での発生

	本年	平年	前年
平均発生程度	1.00	1.00	1.02

◇7月第1半旬までの予察灯（呉市安浦町）での累積誘殺数

	本年	平年	前年
累積誘殺数 （頭）	0	0.1	0

◆気象条件：中国地方1か月予報によると，平均気温は平年並と予報されている。

(4) コブノメイガ

◆予報 (並)

◆現況調査結果 (並 (発生なし))

	本年	平年	前年
発生地点率 (%)	0	2.4	7.7
発生株率 (%)	0	0.1	0.3

(5) 斑点米カメムシ類 (カスミカメムシ類, その他加害種)

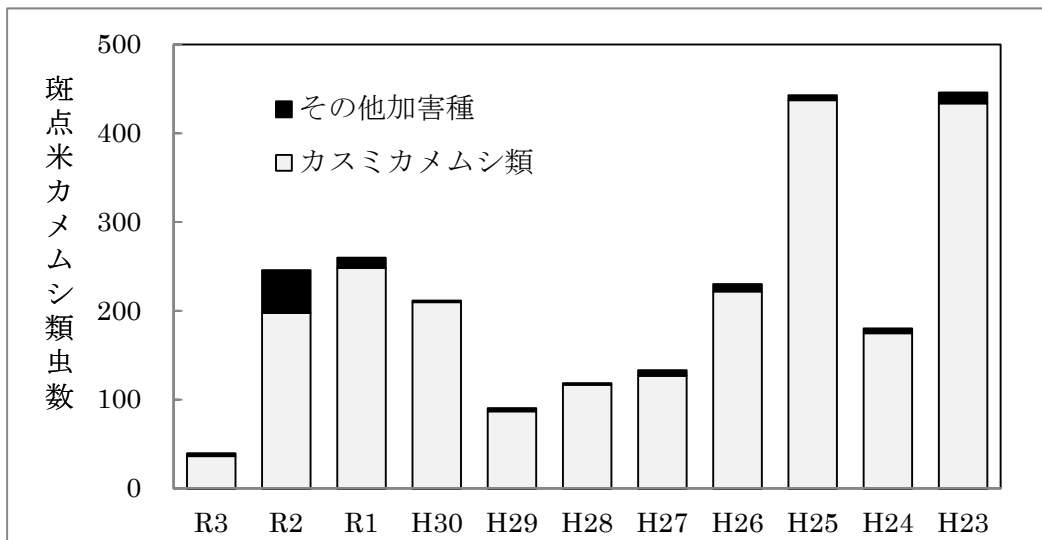
◆予報 (やや少)

◆現況調査結果 (中北部: やや少)

6月下旬における牧草地すくいとり調査結果 (H26年以前は7月上旬調査)

発生頭数	本年	平年	前年
カスミカメムシ類	36.3	214.3	197.7
その他加害種	3.3	10.3	48.2

※発生頭数は捕虫網による牧草地での20回振りすくいとり調査による



「予報」「現況」は、「多～少」の5階級に区分して発表しています。区分の方法は、原則として、過去

10年の数値を発生が多かった順に並べて、相対比較しています。

「多」 : 1番目 (最多年) と同程度以上

「やや多」 : 2～3番目と同程度

「平年並」 : 4～7番目と同程度

「やや少」 : 8～9番目と同程度

「少」 : 10番目 (最少年) と同程度以下

区分 順序	多	やや多	並				やや少	少	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9

## 3

## その他の病害虫の発生状況（現況調査：7月5～7日，26地点調査）

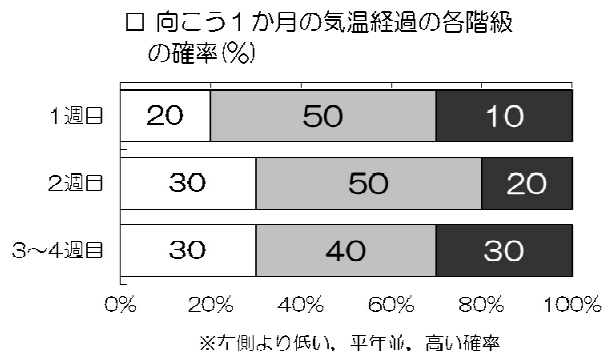
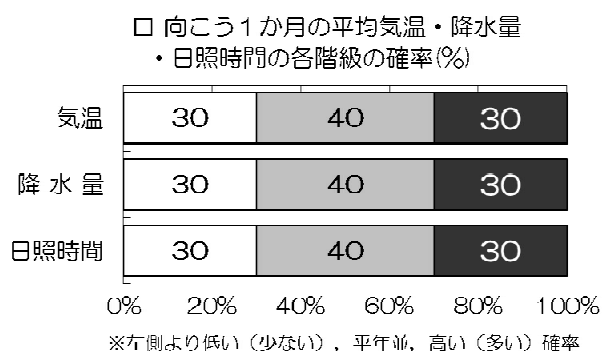
病害虫名	現況	防除上の注意事項等
ヒメトビウンカ	少	出穂前後の防除を徹底する。また、縞葉枯病を発病した株は抜き取る。
フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少	穂ばらみ期防除を基本とする。

## 4

## 気象情報

中国地方1か月予報（広島地方气象台7月8日発表，7月10日から8月11日までの天候見通し）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下の通りです。期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目・2週目のいずれの期間も、平年並の確率50%です。



6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動実施中！**  
 農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や  
 注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。



りもれん